

Title	木製家具業界とカリモクグループに関する一考察
Sub Title	
Author	小野貞光(Ono, Sadamitsu) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	小野 貞 光	主査	片岡 一 郎	教授
	(株式会社 伊勢丹)	副査	嶋口 充 輝	助教授
所属ゼミナール	片岡 一 郎 研		和田 充 夫	助教授

木製家具業界とカリモクグループに関する一考察

本論文は、木製家具業界の特質及びカリモクグループの成長要因・経営政策を分析しようとするものである。

木製家具製造業者においては、多品種少量生産、高付刊価置、零細性などが特徴であり、典型的な中小企業分野である。昭和49年までは高い成長を遂げたものの、近年は停滞傾向にある。これは、着工新設住宅件数の伸び悩み、婚姻数の減少があり、婚礼需要・新築需要の成長が望めないことにその理由がある。また消費者のニーズにも大きな変化が認められ、当業界は成長期から成熟期へ移行したものとみられる。

このような業界にあってカリモクグループは着実な成長を続けており、グループ親会社である刈谷木材工業は参入後短期間でトップ企業となっている。カリモクの成長要因は、販売・生産・製品の各々の政策に卓越していたことにあることが明らかにされている。

最後に、木製家具業界の今後を展望し、アンゾフの製品－市場戦略の概念を用いてカリモクの今後の戦略展開の方向を提言している。また特に、製品政策のあり方について検討を加えている。